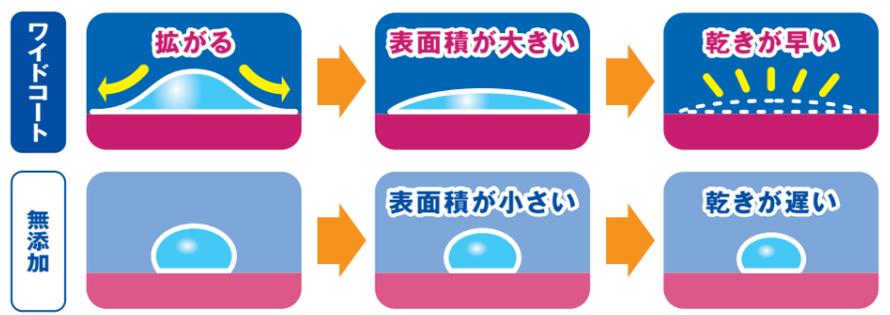


ワイドに広がるから、薬剤の乾きも早い!

ワイドコートは薬剤を速やかに拡げるため、表面積が広くなり、その結果、薬液の乾きが早くなります。また、その乾きの早さが、ワイドコートの優れた拡張性を示しています。

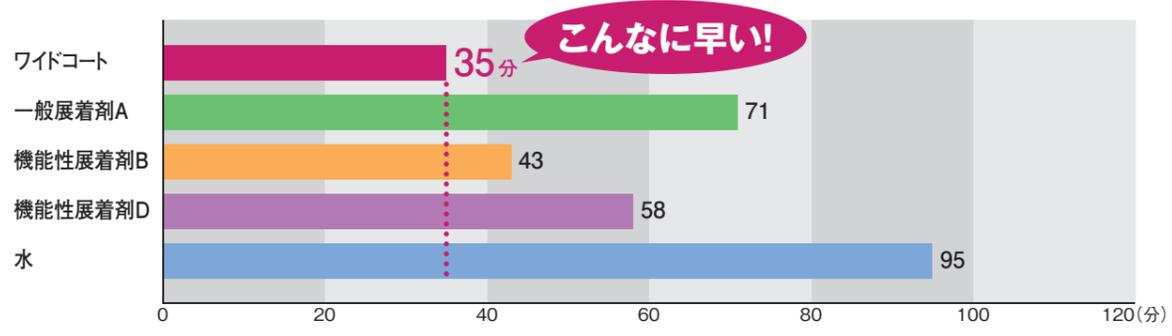
■ 乾くのが早い理由



■ 展着剤散布後の乾燥時間の比較

(きゅうり葉/ドリフト低減型ノズル200ℓ/10a)

(日本化薬株式会社 社内試験)



■ 適用範囲と使用方法

適用農薬名	作物名	散布液10ℓ当りの使用量	使用方法
殺虫剤	野菜類、いも類、豆類(種実)、稲、麦類、雑穀類、てんさい、茶、花き類・観葉植物	1~3.3ml (3,000~10,000倍)	添加
	果樹類	1~2ml (5,000~10,000倍)	
殺菌剤	野菜類、いも類、豆類(種実)、稲、麦類、雑穀類、てんさい、茶、花き類・観葉植物、芝	1~3.3ml (3,000~10,000倍)	
	果樹類	1~2ml (5,000~10,000倍)	
メタミロン水和剤、フェンメディファム乳剤、レナシル・PAC水和剤、フェンメディファム・メタミロン水和剤	てんさい	3.3ml (3,000倍)	
ハロスルフロンメチル水和剤、MCPAイソプロピルアミン塩液剤等の除草剤	芝	1~3.3ml (3,000~10,000倍)	

▲ 効果・薬害などの注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調整し使い切ってください。
- 本剤を直接散布液に加え、十分かき混ぜてから散布してください。
- 使用に当っては、使用農薬の使用条件や使用上の注意事項を厳守してください。
- 適用農薬の使用上の注意事項に薬害の生じやすい作物、気象条件などが記載されている場合には本剤の使用を避けてください。
- 作物の幼苗期、高温時など一般に薬害の生じやすい条件では、本剤の使用を避けてください。
- プロココリー、カリフラワー及び、非結球あぶらな科葉菜類にはコルク斑などの薬害を生じることがあるので、使用しないでください。
- なす科果菜類の果実には散布液の乾きにくい条件(冬季、散布水量が多い場合など)ではコルク斑などの薬害を生じることがあるので、本剤の添加量または散布水量を減らすなどして、注意して使用してください。
- 果樹類では落花4週間後程度までの使用は薬害を生じるおそれがあるので避けてください。
- 果樹類に使用する場合、果粉溶脱のおそれがあるので、使用前に十分確認してください。
- 本剤を初めて使用する場合には、事前に薬害の有無を十分確認してください。
- 塗装汚損のおそれがあるので、自動車などに散布液がかかぬよう注意してください。

- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

▲ 安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 原液は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調整時には保護眼鏡を着用して薬液が眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようし、施用した作物等との接触を避けてください。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。● ラベルの記載以外には使用しないでください。● 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

本資料は2018年7月現在の登録内容に基づいています。

日産化学株式会社
 東京都中央区日本橋二丁目5番1号
 ホームページ <https://www.nissan-agro.net/>
 お客様窓口 TEL.03-4463-8271 (9:00~17:30 土日祝日除く)

WDC-FPS4A



ピタッとくっつく。

ワイドに拡がり、

ムラなく拡がり、しかも落ちづらい。
だから、少量散布でも農薬本来の安定した効果を引き出します。

機能性展着剤

ワイドコート

©は日本化薬株式会社の登録商標

ムラなく拡がり、しかも落ちづらい。

農薬本来の安定した効果を引き出す
機能性展着剤、ワイドコート。

登録番号: 第22709号
有効成分: ジオクチルスルホコハク酸ナトリウム…22.5%
ポリオキシエチレンアルキルエーテル…50.0%
性状: 淡黄色澄明粘稠液体
容量: 500mL, 5L

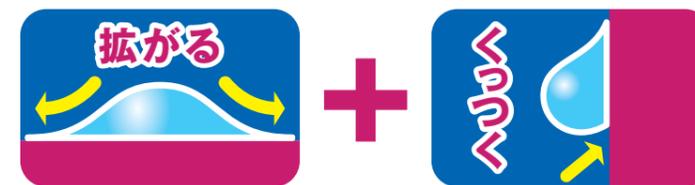


ワイドコートは、展着剤の持つ機能のうち、

薬剤を均一に拡げる **薬剤を作物に付着させる** という機能を

“両立”させた、全く新しいタイプの機能性展着剤です。

特性の異なる界面活性剤をW配合!



2種類の界面活性剤「拡がる」タイプと「くっつく」タイプが、
絶妙な比率で配合されています。

そのため

ムラなく拡がり、しかも、ピタッとくっつく。

薬剤が作物表面で「均一に拡がる」作用と、
「ピタッと付着」する作用の両立に成功しました。

詳しくは
P4へ

だから

農薬本来の力を引き出します。

薬剤を均一に付着させることができるため、少量散布でも、
農薬本来の安定した効果を引き出すことが可能です。

詳しくは
P6へ



作物上に、薬剤が均一かつワイドに広がります。

主として、「広がる」タイプの界面活性剤の働きで、薬剤をより均一に拡げることができます。



薬剤が付きづらい作物でも、ピタッと付着します。

主として、「くっつく」タイプの界面活性剤の働きで、薬剤をより作物に安定して付着させることができます。

■ 蛍光顔料のキャベツへの付着性比較

ワイドコートを追加すると、より付着面積率を高めることができました。これにより、薬剤が本来持つ力をより引き出すことが期待できます。



(日本化薬株式会社 社内試験)

【試験概要】
蛍光顔料を入れた希釈液を作物に散布。それを撮影し、画像処理ソフトで明部の面積率を計算。作物表面上の均一性を数値化した。

■ 蛍光顔料のりんごへの付着性比較

ワイドコートを追加すると、一般に薬剤が付きづらいとされている作物にも、より付着させることができました。これにより、薬剤が本来持つ力をより引き出すことが期待できます。



(日本化薬株式会社 社内試験)

【試験概要】
蛍光顔料を入れた希釈液を作り、作物に散布。散布液乾燥後に暗所で近紫外線ランプを照射し、カメラで撮影した。

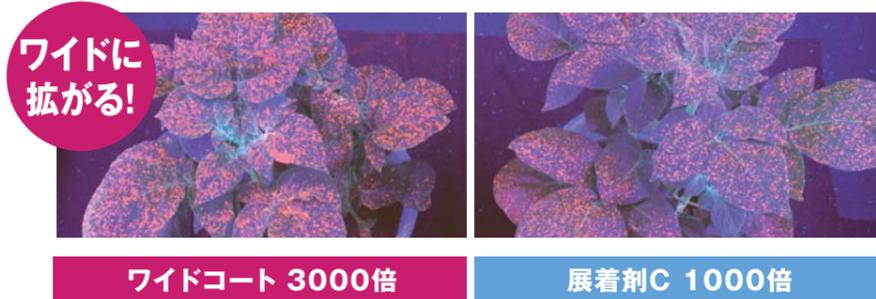
■ 蛍光顔料のりんごへの付着性比較



(日本化薬株式会社 社内試験)

【試験概要】
蛍光顔料を入れた希釈液を作り、作物に散布。散布液乾燥後に暗所で近紫外線ランプを照射し、カメラで撮影した。

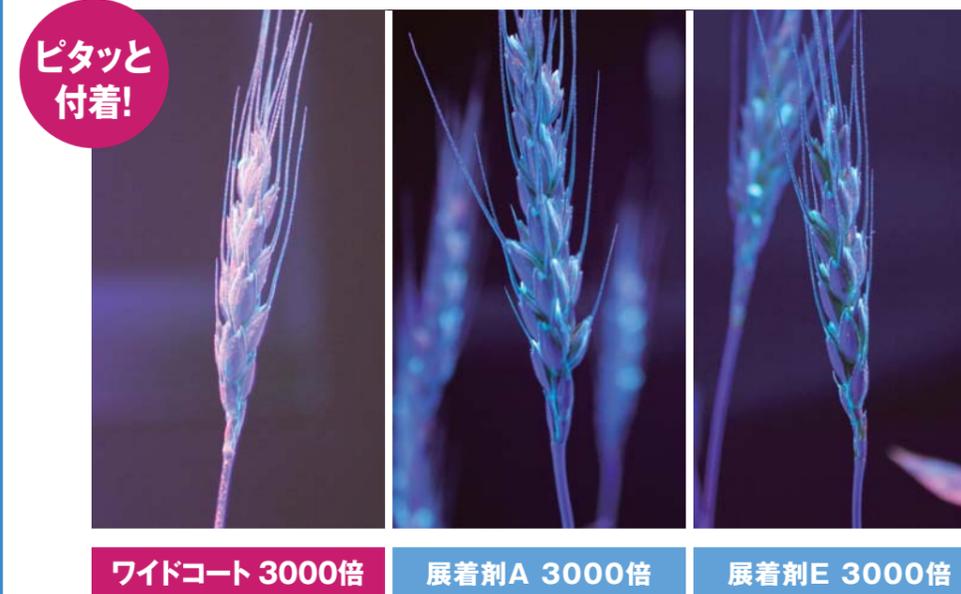
■ 蛍光顔料のばれいしょへの付着性比較



(日本化薬株式会社 社内試験)

【試験概要】
蛍光顔料を入れた希釈液を作り、作物に散布。散布液乾燥後に暗所で近紫外線ランプを照射し、カメラで撮影した。

■ 蛍光顔料の小麦への付着性比較



(日本化薬株式会社 社内試験)

【試験概要】
蛍光顔料を入れた希釈液を作り、作物に散布。散布液乾燥後に暗所で近紫外線ランプを照射し、カメラで撮影した。

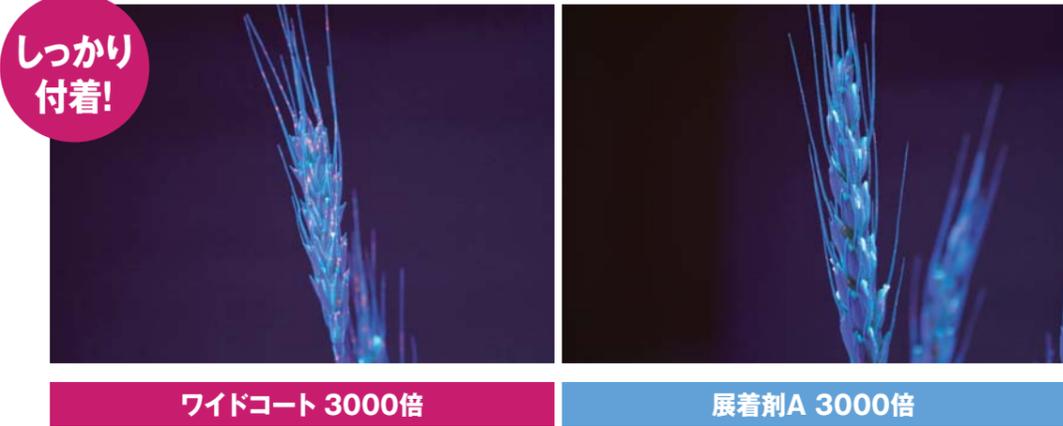
※写真およびデータ提供:日本化薬株式会社

少量散布でも安定して拡げ、付着させる!

「ワイドに拡がり、しかもピタッとくっつく」。ワイドコート働きにより、薬剤が付きづらい少量散布であっても、安定して薬剤を拡げ付着させることができます。

■ 蛍光顔料の麦への付着性比較 (25ℓ/10a)

ワイドコートを添加すると、一般に薬剤が付きづらいとされている少量散布でも、より付着させることができました。これにより、薬剤が本来持つ力をより引き出すことが期待できます。



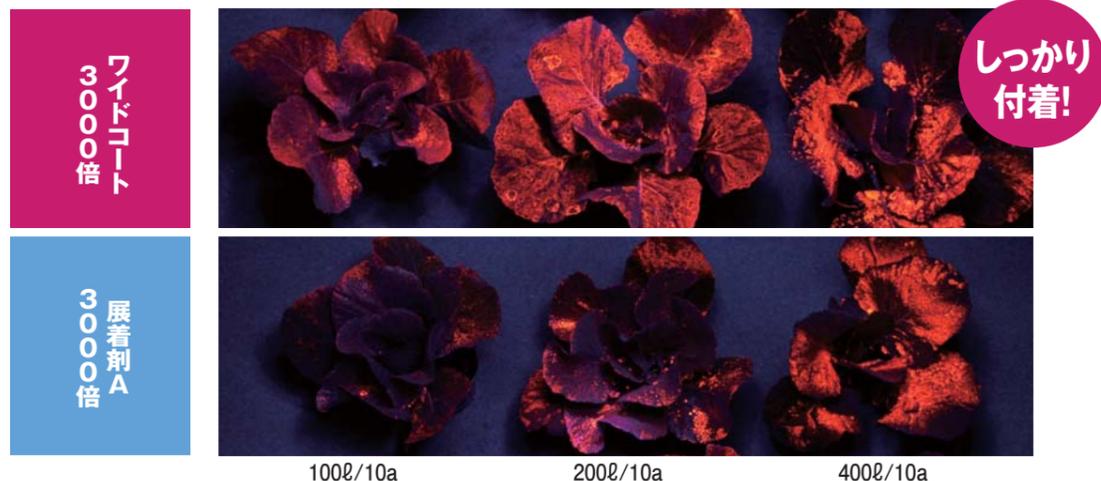
(日本化薬株式会社 社内試験)

【試験概要】

蛍光顔料を入れた希釈液を作り、作物に散布。散布液乾燥後に暗所で近紫外線ランプを照射し、カメラで撮影した。

■ 蛍光顔料のキャベツへの付着性比較

散布液量を10アール当り100ℓ、200ℓ、400ℓと変えて散布しましたが、ワイドコートは安定して拡げ、付着していることが確認できました。



(日本化薬株式会社 社内試験)

【試験概要】

蛍光顔料を入れた希釈液を作り、作物に散布。散布液乾燥後に暗所で近紫外線ランプを照射し、カメラで撮影した。

薬剤による汚れを軽減!

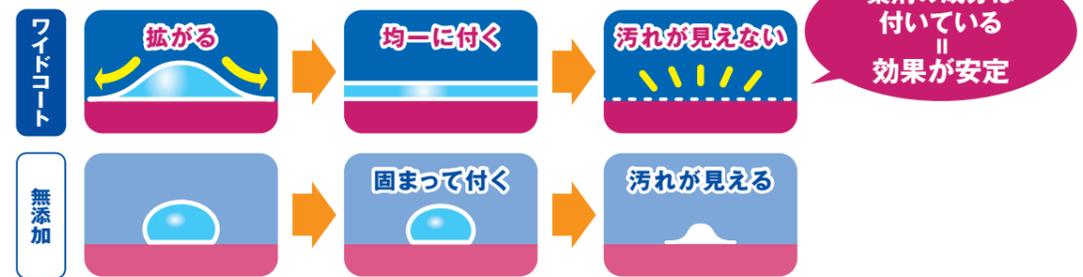
主として、「拡がる」タイプの界面活性剤の働きで、薬剤をより均一に拡げることができます。これにより、作物への汚れがより目立たなくなります。しかも付着させるので、薬剤が本来持つ力をより引き出すことが期待できます。

■ ならへの汚れ程度比較



(日本化薬株式会社 社内試験)

■ 汚れが目立たない理由



ワイドコートを安全に使用していただくために

■ ご使用をお薦めする作物

ねぎ、たまねぎ、なら、にんにく、てんさい、麦類、稲

■ 薬害症状が確認された作物

日産化学の現地圃場試験で一部の作物に薬害症状が確認されたため、日産化学(株)生物科学研究所、日本化薬(株)アグロ研究所にて各種作物で再現試験を行い、症状を確認しました。

作物	薬害症状等	対応
アブラナ科野菜	ブロッコリー(花蕾茎部) カリフラワー(葉) チンゲンサイ(葉) コマツナ(葉)	水浸状の薬斑* 使用を避けてください
花き類・観葉植物	バラ	
ナス科果菜	トマト、ミニトマト	低温で薬剤が乾きにくい条件、 低倍数、多散布水量で発生する傾向があります のでご注意ください
	ナス	
	ピーマン	
ウリ科	きゅうり	幼果下部にさび果
マメ科	えんどう	ガクにリング状斑

*:低温で薬液が乾きにくい条件で発生する傾向あり

△作物への安全性に万全を期すため、使用の際は以下の点にご注意ください。

- 1.作物により薬害を生ずることがあるので注意してください。
- 2.作物の幼苗期、高温など一般に薬害の生じやすい条件では、本剤の使用を避けてください。
- 3.本剤を初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。